

# COMPASS

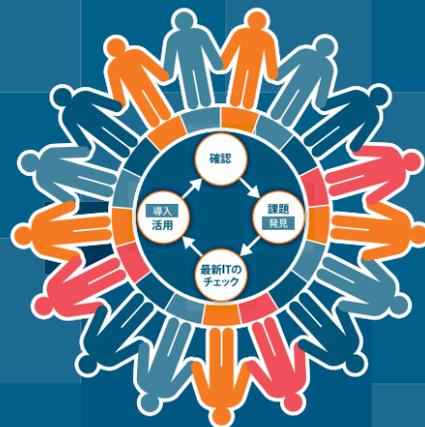
中小企業のIT活用情報をわかりやすく紹介

Winter 2022 冬

特集

## 持続可能な 中小企業とは？

— 人材育成とデジタル化、両輪を回す —



FOCUS

- ・奉行クラウドとLINE WORKSが連携
- ・RPA導入プロセス  
ユーザーに聞く

支援情報  
瓦版

- ・ITコーディネータ資格20周年記念表彰
- ・「企業の変わり方」セミナー

連載

Webサイト&ネットショップ  
よくある勘違いから脱出する

compass:羅針盤(儀)=指針・方向性  
<https://www.compass-it.jp/>

COMPASS [コンパス] 2022年冬号  
令和3年12月5日発行

株式会社 リックテコム 発行人:土岡正純 編集人:石原由美子 頒布価格:本体396円(税込)

IT活用に関する「困った」を解決する専門家があります。

## ITコーディネータに ご相談ください



ITコーディネータとは、経営者と対話しながら、経営戦略のなかでITをどのように活用するかを経営者とともに考えるプロフェッショナル。経済産業省推進資格です。

例えば、こんな相談に対応できます



### 社会の変化への対応

- ・改革したいがどこから手をつけたらよいのだろう
- ・テレワークなど新しい取り組みをしたい



### 業務とIT/IoTの問題

- ・受発注や入出金の管理をもっと効率化したい
- ・リピータを増やす仕組みを作りたい



### ホームページ活用

- ・どうやって作るのがよいのか
- ・アクセスが増えずに困っている

- 直接のお問い合わせは協会の「経営とIT化相談」まで
- 支援機関にご相談の際に、「ITコーディネータの方はいますか」と是非聞いてください。



NEW!

ITコーディネータの  
実際をわかりやすく  
紹介する小冊子が  
できました!

お問い合わせ先



特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会  
〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-17-8 浜町平和ビル7階

<https://www.itc.or.jp/>  
TEL:03-3527-2177

## CONTENTS

## 特集

## 2 持続可能な中小企業とは？

—人材育成とデジタル化、両輪を回す—

## 事例

## 4 人材育成とデジタル化

宮城県村田町 製造業 プラスエンジニアリング  
スキルの洗い出しと技能育成で  
利益の出る多品種少量ビジネスを

## 6 企業再訪

東京都江戸川区 運送業 彦新  
若手社員が前向きに働ける会社に  
新規事業やIT活用で新たな発見も



## 8 RPA導入と使用感

自社の業務はRPAを上手に適用できるか？  
「信頼できる事前相談」と価格設定がカギ

## 10 支援情報瓦版

ITコーディネータ資格20周年記念表彰、DX NEXT TOHOKU、  
IT経営カンファレンス、中小企業119等

## 12 進化するITツール 基幹業務

従業員とバックオフィスがより速くもっとかんたんにつながる  
奉行クラウドとLINE WORKSが連携、さらに便利に

## 14 連載 Webサイト&amp;ネットショップ “よくある勘違い”から脱出する！

「キーワード戦略」  
小笠原富美子氏

## 15 トピックス

## 経営者の皆様に贈る

## 新刊書籍

第1章 経営の足腰を強くする

第2章 結果を左右する「企業文化」の醸成

第3章 社長自身のPDCAを回す

第4章 「変われる会社」に欠かせぬIT、AI、そしてDX

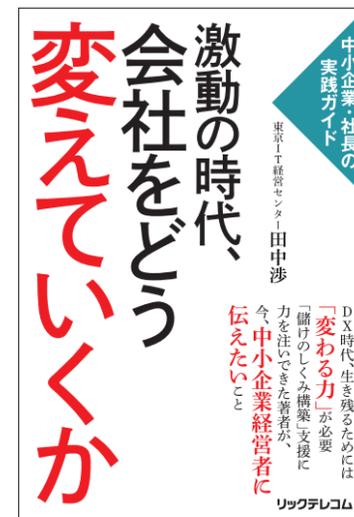
## 続々、読者の感想

これは読みやすい。  
経営者や支援者にお勧め

DXの具体的なイメージがつかめました  
マーケティング手法から企業内分析など  
素人でも着手できそう

ITコーディネータの  
役割がわかりました

中小企業の経営者に  
ぜひ読んでいただきたいです



●著者 東京IT経営センター 田中渉  
●ページ数 212ページ  
●価格 1870円(税込)  
●発行 リックテレコム  
●ISBN 978-4865943108

その方法論を1冊に凝縮

続けることは、変わることに

&lt;ご購入に関して&gt;

ISBNコードをお伝えいただければ、**全国どこの書店でも**ご購入いただけます。  
10部以上のご購入は、COMPASS編集部までお願いいたします。

株式会社 リックテレコム COMPASS編集企画室 <https://www.compass-it.jp/>

特集

# 持続可能な 中小企業とは？

—人材育成とデジタル化、両輪を回す—



DX（デジタルトランスフォーメーション）が伝えたいことは、企業の変わる力の伸長である。不確定、不確実な時代は、正解がない。動かしながら課題を受けとめ変えていく姿勢こそが、会社を持続させていく。そのため大切なのは、働く人の力、そしてITである。

## 採用した人材の伸びが 企業の業績を決める

手作業をデジタルに置き換え、それらを高度に活用し、タイミングを見て大きな変革であるDX（デジタルトランスフォーメーション）を実行——固定したステップのように語られやすいDXだが、実際は、デジタル化も高度なIT活用も、その時々課題に応じて繰り返し行われる。「ITを入れたから安心」でもないし、DXを行っていると認められたからそれで良いわけではない。企業が持続していくためには、小さな変化や改革を重ねつつ、顧客や市場、技術の変化を受けとめ大きな変化を起こす。これを繰り返し続けていくことが大切である。

改革志向の経営者から最近特に聞かれるようになった言葉が、「人材育成」である。

働き方改革、ワークライフバランス、健康経営の推進など、働く人にやさしく、「使い捨てされないホワイトなイメージ」の会社



人材育成に意識の高い経営者が関心を示すアプリ「Mind Weather」

は若手から人気がある。人材採用の面では大きな差がついたといっても過言ではない。

では、採用した有望社員にどう力を発揮してもらうか。時間のかかる作業的な仕事はITツールで代行できる今、技能を高め発想を豊かに、実行力を持って業務に臨む社員の活躍が、会社にとっても本人にとってもプラス効果を生む。

## ITによる省力化と 人の能力開発を合わせる

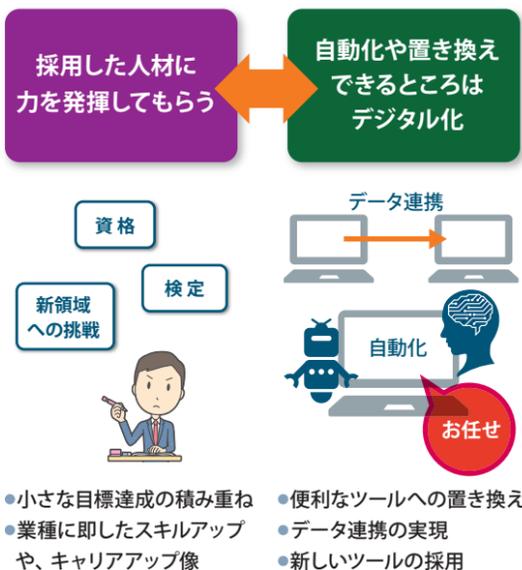
「技能の高い社員が増えれば、

それだけ現場の柔軟性が高まり効率上がるのです」

製造業のプラスエンジニアリングでは、技能向上を目標設定やインセンティブで支援している。一方で、多くの時間を要していた生産計画作成業務を自動化して、時間を圧縮。より利益につながる取り組みを進めている。一方、「50代以降の明るい働き方が見えるように、入社してくれた若手社員の教育に力を注いでいきます」と話すのは、運送業の彦新である。

働きやすい職場環境を整えた

## 会社を続けていくために 人とデジタルの両面から



- 小さな目標達成の積み重ね
- 便利なツールへの置き換え
- 業種に即したスキルアップや、キャリアアップ像
- データ連携の実現
- 新しいツールの採用

## 社員の様子を知り 会社のPDCAを回す

今、運送業の特性である給与とピークアウト問題に正面から取り組む。同時に運送以外の事業にも挑戦し、相乗効果や、多様な働き場所の確保を視野に入れる。バックヤード業務を効率化するIT活用も、「入れて終わら」ではなく問題意識を持ちながら、最善の策を講じている。

今年、本誌が関与した中小企業向けのITセミナーは、DXのテーマが多かった。事例やアプリケーションを紹介するなかで、参加した経営者から反応が高かったアプリケーションがある。

2021年夏号の事例で紹介した「Mind Weather」（マインドウェザー）である。

これは、週1回の簡単なアンケートで、社員一人ひとりの「心もよう」を把握できるスマートフォンアプリだ。遠隔勤務はもちろん、社内においても業務以外の話はあまりできない中、目に見えない社員の変化に気づくこ

とができる。

つまり、経営者は、自動化やデータ活用の一方で、社員が元気に力を発揮してもらうことに課題意識があるといえる。

アプリの活用において大切なのは管理者がどのようなその後の対応をするかであるが、「気づく前に退職届が出ていた」「モチベーションが下がっていることを察知できなかった」という残念な事態を回避するきっかけになる。

データを見てPDCA（計画、実行、チェック、改善）を回すことで、育成の力もアップするはずだ。

デジタル化で変化する業務、それを乗り越える力を持つ現場に。持続可能な企業とは、このバランスを見ながら、変化を続けられる会社であろう。

プラスエンジニアリングの改革

マッチングの結果イメージ

テーマ 多品種少ロットできちんと利益を上げるには？

年間約1万8000のオーダー。「1個、2個」が50%以上!



技能把握の例  
 ・国家資格の取得奨励  
 ・技能給の設定  
 ・5Sや意識改革

一定の利益を下回る見積は上長の許可が必要

技能を加味して担当と生産スケジュール作成を自動化

<自動スケジュールの例>



利益の確保・納期厳守

顧客満足度アップ



現在は、案件の成約確度を学習するAI生成にチャレンジ中



製造する部品の例



1個、2個の製造が約半分を占める



取締役 仙台事業所長 浅野謙一郎氏

多品種少量生産にどのように対応していくかは製造業の課題の一つ。多様化の時代、他の産業においても、きめ細かい個別対応が求められる、「小回りが利く事業体制づくり」が急務だ。

この課題に正面から取り組んできたのが、電子部品や半導体関係を中心に機械部品加工を手掛けるプラスエンジニアリングである。

「価格を上げすぎず多品種少量対応するのは、皆が嫌がるゾーン、見方を変えようとブルーオーシャンなのです。この世界で儲かる方法を追求してきました」

取締役・仙台事業所長の浅野謙一郎氏はこう打ち明ける。本

社は東京だが営業機能が中心で、多くの社員が勤務する工場は宮城県村田町にある。

プラスエンジニアリングでは1個・2個の受注が全体の半数以上を占める。単価も5000円〜1万円が中心だ。

2009年から、5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)を基盤に改革を続け、納期の遵守、利益率上昇を実現してきた。

その柱が、①社員の能力を高め多能工を増やす人材育成と、②時間のかかる生産計画や正確な見積作成に寄与するIT活用である。

受注内容に応じて自動的に生産計画を作成

IT活用の焦点となったのは、生産計画に時間を要していることの解決と、個別採算ラインを把握し見積金額の設定をルール化することだった。

生産計画の省力化には、自動生産スケジュール「Asprova」を導入した。ただ、こうしたシステムを使うには、元となるデータが必要になる。

同社ではモノづくりの工程を分解し手順を見える化し、さら

3か月単位の目標設定 国家検定は基本給に反映

プラスエンジニアリングの工

スキルの洗い出しと技能育成で利益の出る多品種少量ビジネスを

宮城県村田町 製造業 プラスエンジニアリング

に社員一人ひとりの技能(どのレベルの作業までできるか)を明らかにした。これらのデータを用いて、機械の空き状況と合わせて作業スケジュールの自動作成を可能とした。

見積額の基準に関しては、加工実績を人や機械の作業時間に落とし込み、予測原価を参照できるシステムを構築。示された基準を下回る見積を出す際は、上長の承認が必要となる。

これらの仕組みで、生産計画の自動化、採算が取れない見積の回避を実現し、多品種少量で利益を確保する体制を構築で

きた。

「製造業のデジタル化は、経営の源である利益をどう確保するかのアプローチが大切です」

浅野氏は本質的なところをズバリと指摘した。

IoTを使った見える化も経営改善に活かしてこそ意味を持つ。同社は現在、タブレット端末を利用した実作業時間の正確な把握や、機械の稼働を簡単に把握するシステムにトライしたり(宮城県先進的AI/IoT活用ビジネス創出実証事業「コー・ワークス社が支援」、さらに進んだデータ活用を試みているところだ。

そして、今、AIの活用にチャレンジ中だ。

「以前試した受注予測は踏み込んだデータが得られませんでした。そこで、今は、ベテランの営業担当が感覚的に持っている受注確度予測をAIが学び、経験が少ない人のアシストができないかと取り組んでいます」

実証実験の結果が待たれるところだ。

**会社概要**

**プラスエンジニアリング株式会社**

東京都豊島区東池袋1-18-1 Hareza Tower12階  
 【仙台事業所】宮城県柴田郡村田町大字村田字西ヶ丘21

●代表者：代表取締役社長 鈴木重人氏

●設立：1974年  
 ●従業員数：105名  
 ●事業内容：生産設備用特注部品、製品用試作開発部品の製造

●URL：https://www.pluseng.co.jp/

仙台事業所の社屋

人材育成とIT活用における気づき

# 若手社員が前向きに働ける会社にも新規事業やIT活用で新たな発見も

働き方改革への対応に勤怠管理システムを導入した2019年当初、東京都江戸川区の運送業・彦新では、事業承継後の新しい経営体制の確立、若手の採用、IT活用など、精力的に変化を始めていた。動くことで課題が見え、視野が広がっている。

## 若手の未来をどう描くか 運送業の課題に向き合う

そして2021年秋、彦田敬輔社長の一番の関心事は、人材育成にあった。



代表取締役社長 彦田敬輔氏

「ドライバーが高齢化しているなか、当社は福利厚生や社員を大事にする経営で、若返りしました。運転技術はもちろんですが、目標を立て、健康を維持し、前向きに能力を磨いていけるよう教育の場を設け、積極的に関わっています。ただ、運送業ならではの課題もあるのです」

ドライバーの給与は、輸送距離や時間に基づく歩合によるところが大きく、仕事を覚え体力のある30代〜40代が収入のピークと言われる。若くても高収入が得られる一方、同じ仕事に飽ききたり、50代以降の在り方が見えにくい面がある。

せっかく入社した社員。長く勤務してもらえる会社にするために、彦田社長は、運転や健康維持などにおいて小さな目標をクリアしながら成長できる仕掛

アプリケーションを導入したことで、次の課題が見えた。取締役の大久保正氏は次のように語る。

「遠隔で点呼とアルコールチェックができるIT点呼システムを導入しました。従来は2拠点に2人の管理者が必要でしたが、システム導入により、管理者1名で2か所の点呼を可能とし、2分1の人員で済むようになりました。ただ、このツールと勤怠管理(「勤怠ドライバー」)が連動しないため、今のところ二重管理となっています」



取締役 大久保正氏

## IT点呼の導入で効率化、そして課題も

IT活用の面では、新たな

### 総合クラウド点呼システム「IT点呼キーパー」の活用 (テレニシ株式会社)



### コミュニティ目線で新事業に挑戦 ヒコシンラボ

運送業の枠にとどまらず、地域や人をつなぐ新しい事業を――彦田佳子氏が代表を務める新会社がヒコシンラボである。「大人の修学旅行」として日本百名城やゴルフ親睦会などのツアー企画、地酒を楽しむイベントの開催など、興味や持ち味を生かしたコミュニティ型の事業を展開する。オフィスの入口はバーのようなカウンターが設置され、ツアーの相談や日本酒の購入もできる。人とモノが動く新しい事業活動は、彦新の運送事業にも刺激となり、新たな場を生み出すことが期待される。



点呼が終わると結果が勤怠管理に反映されればスムーズだ。また、勤怠データを元に給与計算を行う際、現行のシステムではデータ連携ができず、「連携させたいが、個別開発すると費用が大きくなってしまおう」(彦田佳子氏)のが悩みだという。

IT活用の効果をより引き出すには、アプリケーション間のデータ連携が欠かせない。IT提供側の対応を待ちたいところだが、すでにこの課題が顕在化しているところが、彦新の改革意欲の高さを示している。解決策として、トラックに装着しているデジタルタコグラフの運用を定着させ(現在は主に走行位置の把握に利用)、得られた運行データを勤怠データにすることも考えているという。

### 彦新が目指すもの

【若い従業員がやりがいをもって長く働ける環境を作る】

1 仕事内容を大きく定義し、運送以外の事業も模索



2 若手社員の人材育成に注力

- 広く、健康や経営に関する教育
  - 運送業の特性を踏まえたキャリアへの関心喚起
- \* 楽しみながら健康・安全運転をサポートするアプリを開発すべく、関係者と意見交換中

会社概要  
株式会社彦新  
東京都江戸川区一之江8-19-6  
彦新ビル2F(市川と鹿島に営業所)  
●設立：1953年  
●従業員数：41名  
●事業内容：一般貨物自動車運送事業、不動産業 他  
●URL：http://www.hikoshin.com/



オフィス風景



保有車両は約40台

「信頼できる事前相談」と価格設定がカギ

ユーザーの声

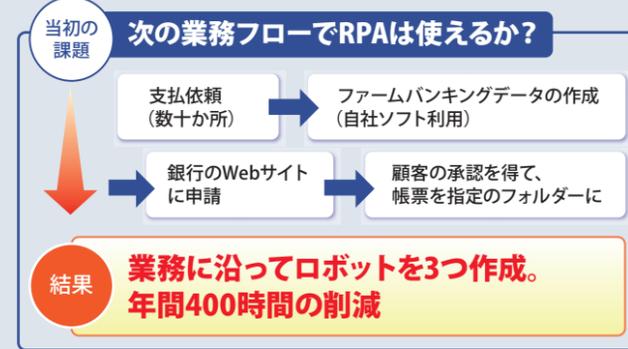
業務の流れと要望を受け止めてもらい「3業務の自動化」がスムーズに進んだ！



SBI ビジネス・ソリューションズ  
アカウントティング・ソリューション部  
課長 塩見裕輔氏

経理業務のアウトソーシング等を手掛ける同社は、数人規模の作業となる支払い業務の委託を受ける。これを機に、以前から気になっていたRPAの活用が浮かんだが、「自社のこの業務でどう使うか」までは見えていなかった。相談したSBI AntWorks Asiaとインテグレーターは、同社の話をじっくり聞いて「RPAで自動化が可能な業務」を定義。「QueenBOT RPAならできる」という安心感を得て、導入はテンポよく進んだ。

パソコン上の繰り返し操作をソフトウェア上のロボット(姿形はない)が代行処理するRPAは、業務効率の向上を図れる期待のツールだ。ただ、「それなりに費用がかかるので、中小規模の企業は躊躇しがち」ともいわれる。例えばラ



パソコン上の繰り返し操作をソフトウェア上のロボット(姿形はない)が代行処理するRPAは、業務効率の向上を図れる期待のツールだ。ただ、「それなりに費用がかかるので、中小規模の企業は躊躇しがち」ともいわれる。例えばラ

担当のアカウントティング・ソリューション部 課長・塩見裕輔氏は、「言葉は知っており役立つだろうと想像はしていたものの、今回の業務においてどのように対応できるのか、私どもは素人ですし、具体的なところがわかっていませんでした」と振り返る。紹介を受けた「QueenBOT RPA」の提供社およびインテグレーターとの対話で、その不安が手ごたえに変わってきたという。

「業務の流れと要望を、ひたすらお話ししました。きちんと受け止めていただき、RPAでできること、できないことを明確にしてもらいました。コミュニケーションがしっかりできたことは大きかった」と塩見氏。今回の業務プロセスにはQRコードを読み込むなど人の処理が必要な作業もあるため、段階に分

ユーザーの声

「QueenBOT RPA」を入れてどうでしたか？



Q RPAを検討したときの課題や不安はどんなところでしたか？

A 気にはなっていたものの、詳しいことはよく知りませんでした。お客様から初めて受託する業務でもあり、どう適用するのか不安がありました。



塩見さん



Q 手ごたえを得たのは？

A 業務の流れをひたすらお伝えしたところ「じっくり聞きますよ」と受け止めてもらい、専門的な知見から「この一連の作業は自動化できる」「ここはできない」と具体的に話ができて、イメージを持ってました。



塩見さん



Q 導入してみてどんな様子ですか？

A 隣のパソコンの画面が勝手に動き、RPAに任せながら他の仕事ができるのには感動しました。費用も問題ないです。作業的な仕事はロボットに任せ、人でなければできないお客様とのコミュニケーションに時間をあてられるのはRPA導入の大きな効果だと思います。



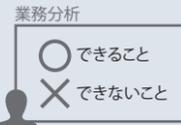
塩見さん

よかったポイント

導入前の相談

インテグレーターによる的確な適用

導入費用



「QueenBOT RPA」は、サーバーによる集中管理ができるのも特徴的だ。日中動かすもの、夜間処理するものなど計画的にスケジュールを組めるので、システムに負荷をかけず、またライセンス費用の削減も行える(ロボットは同時実行数による課金)。

まずは優先課題にRPAを導入し、使いながら次の分野へと広げていくとよいだろう。いよいよRPAは身近な存在に。「QueenBOT RPA」で、人を繰り返し作業から解放し、より人の力が必要な業務へシフトしていこう。

「QueenBOT RPA」は、サーバーによる集中管理ができるのも特徴的だ。日中動かすもの、夜間処理するものなど計画的にスケジュールを組めるので、システムに負荷をかけず、またライセンス費用の削減も行える(ロボットは同時実行数による課金)。

まずは優先課題にRPAを導入し、使いながら次の分野へと広げていくとよいだろう。いよいよRPAは身近な存在に。「QueenBOT RPA」で、人を繰り返し作業から解放し、より人の力が必要な業務へシフトしていこう。

お問い合わせ先

**SBI AntWorks Asia 株式会社**

東京都港区六本木1-6-1  
泉ガーデンタワー

sales@sbiantworks.com

URL <https://www.sbiantworks.com>

「QueenBOT RPA」で費用対効果の良い導入を!

- 特徴1 効果と費用のバランスがイイ! 年額30万円(税別)~
- 特徴2 インテグレーションがある! パートナー企業のサポートで安心して導入できる
- 特徴3 社内RPAの一括管理が可能

わかりやすいロボット作成画面

少しずつ増やせ、管理効率が良い

# 支援情報 瓦版

**はじめに**

- 企業には「変わる力」が必要です  
多くの企業がデジタル化の必要性を認識し始めています。もちろん利益の確保も必要ですが、その企業は環境の変化にどう対応し、変わらなければならないのか。
- ITシステムを入れても「動かない」  
システムを導入したものの、社内にIT活用推進の責任者がいない、ITスキルが不足している、といった状況が少なくありません。
- DX時代だからこそ「変わる力」が必要  
企業を革新するDXは、IoT、AI、5Gに続く新技術ではなく、これらのデジタル技術を用いて、徹底的に活用し、新たな変革を生む、つまり人間性の発露です。

田中渉氏講演の1シーン(画面)

書籍の案内  
<https://www.compass-it.jp/pickup/4758>

フードケア 竹内豊社長

『中小企業・社長の実践ガイド 激動の時代、会社をどう変えていくか』の出版を記念して、11月19日にセミナーが開催された(オンライン)。

主な参加者は中小企業経営者、支援者。著者の田中渉氏がITコーディネータとして支援してきた経験と理論を踏まえ講演を行った。

企業の持続そしてITの上手な活用には、「変わる企業」への仕組みづくりが必要であり、そのため



必要な行動、観点、分析・戦略立案へのツールと使い方が紹介された。

また、「変わる企業」の事例として書籍中で紹介されたフードケアの竹内豊社長からは、自社の取り組みの紹介とお祝いのメッセージが寄せられた。

全国各地域のITコーディネータ届出組織が主催し、ITコーディネータ協会が共催する、中小企業経営者向けセミナー「IT経営カンファレンス」が今年も開催されている。

2022年の開催地域、主催組織は予定は次の通り。

- ・東京・中部・九州
- 1月28日(オンライン)
- ITC Pro 東京・中部・九州
- ・宮城 2月17日
- みちのくIT経営支援センター
- ・九州 2月18日
- IT経営コンサルティング九州、熊本県ITコーディネータ協会、宮崎ITコーディネータ協議会
- ・東京 2月19日



現場にたくさんの「技術」を持つ中小企業は、AIを使いこなすことで、

**AI活用推進へ 支援者がノウハウを取得**

「中小企業119」  
<https://chusho119.go.jp/>

21世紀ITCクラブ

- ・富山 2月予定
- ITコーディネータ富山
- ・長野 2月予定
- 長野県ITコーディネータ協議会

**専門家に無料で相談 中小企業119**

経営にかかわる様々な悩みはもちろぬ、ITツールの導入やIT導入補助金の活用などIT活用については、専門家に相談し、客観的な立場からアドバイスをもらうのが有効だ。

中小企業庁では、身近な支援機関への相談を推奨し、さらに専門的な課題には、専門家を3回まで無料で派遣する「中小企業119」事業を行っている(予定では2022年2月まで。早く終了することもあり)。派遣日程の調整等は、支援機関が行う。

9月28日のセミナー風景(画面)

製造業向けAIをツール化した「MANUFACIA」

強みを伸ばすチャンスが広がり、事業継続に寄与する。

本誌では、製造業のAI活用で豊富な実績を持ち、手ごころな価格で導入できるツール化に成功したクロスコンパス社と連携し、「製造業の未来とAI」セミナーを9月28日に開催した(ネット開催)。

全国各地から多くの聴講者があり、AI分野に力を入れる支援者は、続く11月の「深掘講座」にも参加。

「フィットするAIが見つからなかったが、実現の可能性が見えた」「AI活用を積極的に支援していきたい」との感想が寄せられた。

同シリーズのセミナーは今後も開催する予定である。

## 2021 11 ITコーディネータ協会表彰 DX NEXT TOHOKU、IT経営カンファレンス



本誌2021年秋号掲載のフジタ梶川貴子社長

特定非営利活動法人ITコーディネータ協会は、ITコーディネータ資格20周年を記念し、優れたパートナーシップにより日本の中小企業の範となるDX推進態勢を構築した中小企業経営者とITコーディネータ(ITC)の表彰を行った(応募者に対する審査)。

2021年11月5日に開催された

ITCカンファレンスにて、優秀賞受賞者の表彰と受賞者のスピーチが行われた。

- 最優秀賞 経済産業省商務情報政策局長賞) 株式会社ヒサノ 久保誠氏 (ITC 小柴宏記氏、中尾克代氏)
- 優秀賞(独立行政法人情報処理推進機構理事長賞) セイブ管工土木株式会社 坂井ツヨ子氏 (ITC 中尾克代氏)
- 優秀賞(特定非営利活動法人ITコーディネータ協会会長賞) 会宝産業株式会社 近藤高行氏 (ITC 横屋俊一氏)

株式会社かえる不動産 田中正臣氏 (ITC 矢野英治氏)

株式会社フジタ 梶川貴子氏 (ITC 吉田誠氏)

株式会社MU 山田元樹氏 (ITC 福田大真氏)

さらに奨励賞として9社が選出された。

人口減少が加速している東北地方において、DXの推進による地域の活性化を図り、産学官が連携して、「人口が減っても、売上を減らさず豊かな地域づくりを」行うべく、一般社団法人DX NEXT TOHOKU が設立された。

主な活動はDXを実行したい企業向けの支援活動と、DXをサポートするIT企業向けのサービス。

前者では、様々なイベントを開催するほか、「DX相談窓口」を設け、企業の課題を聞きDX推進のアドバイス、提案を行う。後者は、IT人材の育成に力を入れていく。DXは大きな取り組みとなるため、いきなり特定のIT企業に相談するのは難しい。こうした窓口が機能していくことが期待される。

DX NEXT TOHOKU <https://dx-tohoku.jp/>



# 従業員とバックオフィスがより速くもつとかなんにつながる 奉行クラウドとLINE WORKSが連携、さらに便利に

会計、給与、勤怠など、これまで分野ごとに分かれていた基幹業務システムは、関連する業務間でデータ連携が可能となってきた。異なる会社のサービスでも一定の規則のもと「API連携」が進んでいる。例えば勤怠管理のデータを給与処理に自動反映させるなど、改めての入力や、CSVファイルに落として次のソフトにアップするという作業が減りつつある。

オービックビジネスコンサルタント（OBC）の「奉行クラウド」シリーズでは、同社内のサービス間以外に100以上のITツールやサービスとAPI連携を実現しており、業務処理の効率化や人的ミスの削減、テレワーク対応などに貢献している。

上が図られてきたなかで、また、総務・経理・人事部門に作業負担をかけている仕事がある。それは、例えば、タイムカードの打刻漏れの連絡、休暇申請の承認結果の伝達、給与明細をメール添付して送信……といった、「必要な作業や処理結果を従業員に伝える」仕事だ。

「LINE WORKS」は、パソコンでもスマートフォンでも、時間や場所を問わず業務上のチャットや掲示板、カレンダーなどの機能を「LINE」と同じ感覚で使えるサービスだ。普段の業務連絡や情報共有に利用していれば、アプリを開く頻度も高い。



「処理は速くなったが、社員への連絡業務が課題」データ連携により生産性の向上が図られてきたなかで、また、総務・経理・人事部門に作業負担をかけている仕事がある。それは、例えば、タイムカードの打刻漏れの連絡、休暇申請の承認結果の伝達、給与明細をメール添付して送信……といった、「必要な作業や処理結果を従業員に伝える」仕事だ。

今回の連携により、「奉行クラウド」で行っている業務で生じた連絡を、簡単な操作で該当者の「LINE WORKS」のトーク画面上に自動通知が可能となった。また、従業員はスマホから、使われている「LINE

① 勤怠管理 「奉行Edge 勤怠管理クラウド」では、従業員に対してはタイムカード打刻漏れや残業時間超過などの連絡、管理者に対しては休暇届など各種申請の承認依頼等の通知を行える。

② 給与関係 「奉行Edge 給与明細電子化クラウド」では、給与明細や源泉徴収票などを各従業員へ自動配信できる。メール送信のミス

③ 従業員の手続き 「奉行Edge 労務管理電子化クラウド」では、住所変更や扶養家族の増加など、入社から退職までに発生する各種手続きの提出通知・連絡を行うことができる。

このように、対象者一人ずつへの通知作業を効率化し、従業員側も自分の都合が良いときに内容を確認。会社全体で時間を有効に使えるのだ。

## 奉行クラウドの新しい連携

**奉行クラウドEdge と LINE WORKS がつながった!**

### 連携でスムーズになる3つの業務

#### 例1) 勤怠管理

#### 奉行 勤怠管理クラウド



**[自動通知]**  
タイムカードの打刻漏れ、休暇申請の承認、残業が超過している場合など、ある状況に置かれた社員への連絡業務

#### 例2) 給与関係

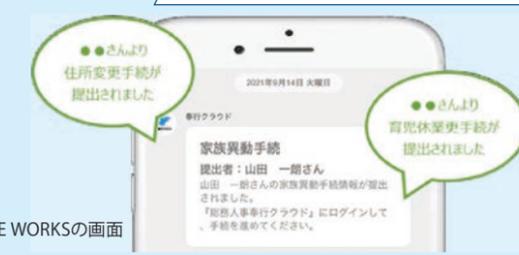
#### 奉行 給与明細電子化クラウド



**[自動通知]**  
給与支給の際の明細送信、源泉徴収票の送信など

#### 例3) 従業員の手続き

#### 奉行 労務管理電子化クラウド



**[自動通知]**  
社員それぞれの住所変更や振込口座の変更など、様々な手続きに関する通知

お問い合わせ先

**OBC**

株式会社オービック  
ビジネスコンサルタント

●ご相談窓口  
0120-121-250

奉行クラウド 検索

「奉行クラウドEdge」シリーズと「LINE WORKS」の連携を活用すれば、バックオフィス、コミュニケーションの両方の分野でデジタル化を推進し、相互連携によって導入効果をさらに高められるはずだ。

＜ユーザー部門 優秀賞受賞企業＞

- 最優秀賞・総務大臣賞/モバイルパブリック賞  
長野県伊那市
- 審査委員長特別賞・モバイル中小企業賞  
八重山漁業協同組合
- 優秀賞
- モバイルテクノロジー賞  
国立大学法人神戸大学等  
「5Gネットワークを活用する遠隔ロボット手術ソリューション」
- モバイルビジネス賞  
富士通株式会社  
「Antenna (アンテナ)」
- 普及促進委員会特別賞  
一般社団法人戸越銀座エリアマネジメント  
「とこしぎんざ来街者数カウント&シェア」



審査委員長特別賞/モバイル中小企業賞の八重山漁業協同組合



普及促進委員会特別賞 戸越銀座エリアマネジメント

お問い合わせ先  
モバイルコンピューティング推進コンソーシアム (MCPC)  
<https://www.mcpc-jp.org/>

表彰

「MCPC award 2021」  
受賞企業決定

モバイルコンピューティング推進コンソーシアム(MCPC)は、モバイル/IoT/AIの活用で顕著な効果あげた企業を表彰する「MCPC award」の2021年受賞者を発表。2021年11月25日に表彰式が行われた。

伊那市は、買い物サービス「ゆあいマーケット」とともに、自治体による「国内初のドローン定常物流サービス」を提供している。

審査委員長特別賞/モバイル中小企業賞は、沖縄県の八重山漁業協同組合が受賞。「漁場の環境情報」と「漁の操業情報」を可視化する「スマート水産」が評価された。

Webサイトを持つのが当たり前といわれつつも、「サイトはあるのに役に立たない…」という悩みも増えている。中小企業のWeb集客支援を多数行っている小笠原富美子氏に、失敗しないポイントを解説いただく。

(編集部)

連載

Webサイト&ネットショップ “よくある勘違い”から脱出する!

今回のテーマ

第3回 キーワード戦略

合同会社サクセシオ 代表  
小笠原富美子氏

中小企業診断士、ITコーディネータ



＜プロフィール＞  
IT企業でコンサルSE分野に携わり、1995年、ITコンサルタントとして独立。ホームページなどWeb集客の相談が増え、延べ6000件を支援。経営視点を重視したWeb集客に取り組んでいる。公的機関における支援実績は2年間で1300件・220事業所を数える。



ベビー用品専門クリーニング  
「株式会社キッズばけっと」  
<https://www.ikujishien.jp/>

前回の連載第2回目では、「USP」をもとに「STP分析」で顧客(顧客ニーズ)を明確にする方法を解説しました。

筆者が担当した、「顧客のニーズ」を具体的に把握する大切さがわかった事例の一つに、ベビー用品専門のクリーニングの会社があります。代表的なサービスは、ベビーカークリーニングで、主な顧客は乳幼児のお母さんです。

担当した時点で、ベビーカー専門のクリーニングの会社はありませんでした。しかし、「ベビーカーをキレイにしたい」というニーズにフォーカスし、ホームページをリニューアルしました。その結果、ホームページだけで集客できるようになりました。

顧客ニーズを言葉にする  
ホームページ、ネットショップではニーズを「言葉にしていくこと」が大切です。言葉にしないと、



ネットでは見つけてもらえませんが、顧客ニーズとして考えられる言葉を書き出していきます。

例えば上記のベビー用品クリーニングの会社の場合、「クリーニング」「ベビーカークリーニング」「ベビーカー きれいにしたい」「ベビーカー 手入れ方法は？」などが考えられます。

検索ツールを使ったリサーチ  
言葉にしたワードを、検索ツールを使い「顧客ニーズの大きさ」を分析します。

ツールはいくつかありますが、代表的なものはGoogleキーワードプランナーです。設定をす

れば無料で使えます。https://ads.google.com/intl/ja\_jp/home/tools/keyword-planner/

キーワードプランナーで「クリーニング」「ベビーカークリーニング」「ベビー用品クリーニング」で検索してみます。

検索ボリュームが多いワードをビッグワード、少ないワードをスモールワードといいます。今回は「スモールワード」がベビー用品クリーニングでした。

ビッグワードは検索される可能性は高くなりますが、一般的には競合が多く、埋もれがちになります。スモールワードは、埋もれる可能性は低くなりますが、顧客に検索される可能性が少なくなりますが、同社の場合、「ベビーカークリーニング」なら一定数の検索があることがわかりました。

検索ボリュームと関連キーワード、競合性をもとに自社で戦略として使うキーワードを選定していきます。このときUSPと顧客ニーズとのズレが生じないことを忘れずに。

小冊子

中小企業経営者向けに  
ITコーディネータの実際を紹介

特定非営利活動法人ITコーディネータ協会(ITCA)は、ITコーディネータの仕事や中小企業支援の様子をわかりやすく解説した小冊子、「ITコーディネータ活用ハンドブック」(A5版8ページ)を発行した。

ITコーディネータの役割、カバー範囲、これまでの支援内容や成果、どんなときに相談できるのか、などを実際の支援事例をベースに、コンパクトに整理している。

ITコーディネータ資格保有者の活動範囲は多岐にわたるが、小冊子では、中小企業のコンサルティング・相談にフォーカスしたのが



お問い合わせ  
NPO 法人 IT コーディネータ協会  
<https://www.itc.or.jp/>

特徴である。中小企業経営者が「自社にとってのITコーディネータの役割」を知り、良い関係が構築されることを期待したい。

COMPASSのWebサイトをご活用ください!

「COMPASS ONLINE」では、本誌情報はもちろん、電子ブック版やWebオリジナル記事、最新の情報をお届けします。

パスワードの登録にて、読者メール会員の方のみが見られるオリジナルコンテンツもスタートしています。



<https://www.compass-it.jp/>

読者アンケート、資料請求された方からのご連絡をWebサイトで受付中!

2022年2月6日まで

COMPASSサイトのトップページボタンからどうぞ

<https://www.compass-it.jp/questionnaires/>

図書カードプレゼント

顧客満足度  
調査  
2021-2022  
日経コンピュータ  
ERP部門  
日経コンピュータ  
2021年9月2日号  
顧客満足度調査 2021-2022  
ERP部門1位

パートナー  
満足度調査  
2021  
日経コンピュータ  
基幹系ソフト/サービス  
日経コンピュータ  
2021年2月18日号  
パートナー満足度調査 2021  
基幹系ソフト/サービス部門1位

# テレ経理・テレ総務は 奉行クラウドに おまかせあれ!

さあ、クラウドに上がろう。

すべての業務とつながるひろがる  
**奉行クラウド**

バックオフィス向けシェアNo.1業務クラウド

財務会計システム  
**勘定奉行クラウド**

財務会計システム  
**勘定奉行クラウド**

財務会計システム  
**勘定奉行クラウド**

固定資産管理システム  
**固定資産奉行クラウド**

申告業務システム  
**申告奉行クラウド**

申告業務システム  
**申告奉行クラウド**

総務・人事・労務業務システム  
**総務人事奉行クラウド**

給与計算システム  
**給与奉行クラウド**

年末調整・法定調書作成システム  
**法定調書奉行クラウド**

販売管理システム  
**商奉行クラウド**

仕入・在庫管理システム  
**蔵奉行クラウド**

債権管理システム  
**債権奉行クラウド**

債権管理システム  
**債権奉行クラウド**

**奉行クラウドEdge**

従業員向け働き方改革ソリューション

**奉行 勤怠管理クラウド**

**奉行 給与明細電子化クラウド**

**奉行 年末調整申告書クラウド**

**奉行 メンタルヘルスケアクラウド**

**奉行 マイナンバークラウド**

**奉行 身上異動届出クラウド**

**奉行 人材情報化クラウド**

**奉行 人材育成クラウド**

**奉行 目標管理クラウド**

**奉行 証憑保管クラウド**

**奉行 労務管理電子化クラウド**

**奉行 キャッシュレスクラウド**

株式会社 **オービックビジネスコンサルタント**

〈首都圏〉〈大阪〉〈名古屋〉〈札幌〉〈仙台〉  
〈関東〉〈横浜〉〈静岡〉〈金沢〉〈広島〉〈福岡〉

導入をご検討の  
お客様専用ダイヤル **0120-121-250** 10:00~12:00 / 13:00~17:00  
※土・日・祝日除く

奉行クラウド

## IT経営マガジン **COMPASS**

2022年冬号  
第19巻4号  
2021年12月5日発行(非売品)

- ◆発行人  
土岡正純
- ◆編集人  
石原由美子
- ◆企画・編集  
大谷聖治  
松森陽子
- ◆デザイン・制作  
株式会社リッククリエイト  
小幡一之
- ◆本文DTP制作・印刷・製本  
壮光舎印刷株式会社
- ◆発行所  
株式会社リックテレコム  
〒113-0034  
東京都文京区湯島3-7-7  
●お問い合わせ、読者登録先  
COMPASS編集企画室  
TEL: 03-3834-8059  
URL: <https://www.compass-it.jp/>

### 支援情報

#### IT導入補助金2021について

##### 通常型

###### 〈A類型〉

- ・補助金申請額: 30万~150万円未満
- ・一つ以上の業務分野のITツールを選択
- ・補助率: 1/2以内

###### 〈B類型〉

- ・補助金申請額: 150万~450万円以下
- ・4つ以上の業務分野に属するITツールを選択
- ・補助率: 1/2以内

5次実施分は2021年12月22日締切

##### 低感染リスク型ビジネス枠

感染リスクにつながる対人接触の機会を低減するような、業務の非対面化に取り組む際のITツール活用が対象。ハードウェアのレンタル費用も対象。

###### 〈C類型〉

- ・補助金申請額: 30万~300万円未満、もしくは300万~450万円以下
- ・2つ以上の業務分野に属するITツールを選択
- ・補助率: 2/3以内

###### 〈D類型〉

- (テレワーク環境構築)
- ・補助金申請額: 30万~150万円以下
- ・2つ以上の業務分野に属するITツールを選択
- ・補助率: 2/3以内

5次実施分は2021年12月22日締切

#### 事業再構築補助金について

新分野展開、事業転換、業種転換、業態転換、または事業再編という思い切った事業再構築に意欲を有する中小企業等の挑戦を支援。

- ・補助率  
中小企業者等・通常枠の場合 2/3(6,000万円を超える部分は1/2)
- ・応募締切 2021年12月21日

#### 「COMPASS」について

「COMPASS」は中堅・中小企業向けに使いやすい製品・サービスを提供している企業のご協力により発行しております。

- 中小企業の方、1社1冊までは、無料でお読みいただけます(お手もとまでお届けします)。
- 発行は年4回の予定です(都合により若干変動します)。  
※セミナー利用等におけるまとまった部数(有料)にも対応させていただきます。
- 読者登録のお申し込みは、下記Webサイトで受け付けております。  
送付先変更、送付中止はEメール([compass@ric.co.jp](mailto:compass@ric.co.jp))までどうぞ

<https://www.compass-it.jp/>

COMPASSのFacebookページで情報発信中。  
「いいね!」をどうぞ!

<https://www.facebook.com/compassnetwork/>